

公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2019年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより7月号

継続は力なり

新しい学年になって3ヶ月が経ちました。私たち大人も、新しい環境に慣れた頃にふと気づくと、疲れとともに緊張がまだ残っているんだな、と感じる時がありますね。

お子さま方が新しい習慣に慣れようとして、緊張がまだ残っているような時こそ、大人がちょっと意識しておきたいのは「ひとつのことができる」と、「それを続けられる」のは別な力が必要である、ということです。例えば赤ちゃんが一人で立ち上がり、歩き続けられるようになるまで、またもう少し大きくなって歯磨きを教わってからそれが習慣になるまで、のように「ひとつのことができる」ようになって、「それを続けられる」ようになるのに、だいたい100日程度はかかる※のだそうです。

この時期のお子さまを見ていると、毎回くもんの教室に通い続けてくれていることはとてもうれしく、すばらしいことだと感心しています。「継続は力なり」のまた新たな一步を、今後も教室でも見守ってまいりたいと思います。

※参考文献：岸本裕史『見える学力 見えない学力』（大月書店 1996）

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“人生においてもっとも得なことは、「読書能力」をつけること”

公文式では発足当初から、数学の学習指導で成果をあげてきていますが、単に方程式が解ける、因数分解ができるという子どもを育ててきたわけではありません。数学や国語や英語の学力をつけて学校の成績を上げることはもちろん大切なことですが、公文式が目標とするところは、考える力を養い、自学自習の態度と習慣を身につけた人間を育てるといことです。国語はもちろんのこと、数学も社会も理科も、問題の内容をすばやく理解できなくては、正しく考えて答えを見つけることはできません。そのためには読解力がなにより必要になります。書かれていることをすばやく理解できることは学習の基本です。けれども読解力は短期間で身につけられるものではありません。多くの本を読み、さまざまな種類の文章にふれることでつかわれるものです。そうして得られる力は本を読んで考え、学べる力、すなわち「読書能力」として身につけていきます。

この「読書能力」は、本を読んで考え学んだ経験とともに、終生自分のものになり、なにをするときでも大きな力になります。

2019年 7月の学習日

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
日	月	火	水	木	金	土
	△	2	△	4	5	6
7	△	9	△	11	12	13
14	15 月の日	16	△	18	19	20
21	△	23	△	25	26	27
28	△	30	△	□本市場教室学習日 △横割教室学習日		

本市場教室日 □

横割教室日 △

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

7月分の会費引き落としは6月28日(金)です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

小学生の算数嫌いや不得意科目としないために！

算数の基本は、できているのか基本ができているつもりになって、実は全然基本ができていないというケースは多くあります。基本=簡単ではなく、基本とは教科書内容を理解し計算力、思考力を育てる力となります。基本をおろそかにして応用力だけがつくということはありません。

まずは基本からしっかり理解定着しておくことが算数嫌いを直す近道になります。

小学生が算数でつまずいてしまう分野は決まっています。

小学生が算数でつまずいてしまう分野を学年ごとに挙げてみます。

小1繰り上がりのある足し算。

小2かけ算の九九。

小3繰り下がりのあるひき算。

小4大きな数、わり算の筆算、計算のきまり。

小5小数のわり算、通分を使った分数の加減、図形の角度、割合(単位量あたりの大きさ)。

小6円の面積、速さ。

以上の分野を学習している時に子供は算数につまづくことが多く、逆に言えばここをクリアすれば算数に苦手意識を感じることなく、スムーズに勉強を進めていくことができます。

小学4・5年生でつまずいてしまう分野が多くあるので要注意

特に小学4、5年生に多くつまずいてしまう分野があることが分かります。

このことは、小学4、5年生になって、算数が嫌いになってしまう子供が多くなるということも示しています。

ですから小学4、5年生の算数については注意して、子供が少しでも分からないと言ってきたならば、すぐに対処する必要があります。

その事が算数嫌いにならないことにもつながります。

それは、中学生になっての数学嫌いを防ぐことにもなります。

ちょっとしたことに注意するだけでミスは減ります。

分かっているはずなのに計算ミスが多い場合。

多くが計算をノートに書かずに頭の中でやっています。

これでは途中計算も書かないので間違いにも気づかず演算もできません。

計算ミスも増えます。

対処法としては、途中計算は書くようにします。

解答用紙のあちこちに計算式を書くのではなく、場所を決めてきれいに書く。

書いた数字で間違いやすい数字、1と7と9、6と0などは意識して太く濃く書く。

このように、ちょっとしたことに注意するだけでミスは減ってきます。

学校の授業の進度状況に合わせてくり返し学習が大事。

公文式は先へ先へと進む予習をやっています。そこでよく誤解があるのが、公文をやっているので学校の授業はいいやという生徒です。公文は学校授業よりも進度に合わせた学習方法で、先へ先へ見通した先取り学習法です。

中学高校で楽に出来る学習をしています。ので、学校授業の進度に合わせた内容は学習はしていません。学校の成績アップを狙いたいのなら、学校の授業も公文式と同じように短時間で何回もくり返し学習をしてください。

これは学習効果を高める繰り返しを行うことになりますので、成績アップにつながります。公文で宿題をさせる最大の目的は、しっかりと時間を計ってスピード力向上、そして学力の定着と学習習慣づけが主な目的です。

単にやらせているわけではないので、親御さんのご協力が大事です。親御さんの放任？手抜きしてくる子がいますよ！ 例；最初と最後だけやってあとは抜かす 前やったプリント丸写しetc. どうぞご協力お願いします。

教室での決まりごと。

①はきものはきちんとそろえよう！

②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！

③もちものには なまえ をかきましょう！

④でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください！

横割教室はエアコンがついていません。年々暑くなっていますが

水筒、保冷剤などで自衛して来室くださるようお願いいたします。